

エゾマツ



No 76号 春季号

2006年4月6日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

目 次

1	巻頭言 新しい年度を迎えて	会長	川端 功治	2
2	野草・雑草	江別市	中西 敏雄	3
3	「サッポロカイギュウ」と小金湯温泉 近傍の山々	札幌市	青山 幸広	5
4	日本産ザゼンソウ属の分布—特にナベ クラザゼンソウについて	札幌市	小泉 三雄	7
5	生き物の多様性について	北広島市	今 善三郎	8
6	原始の自然の息吹きが残る北方四島	北広島市	佐藤 清一	9
7	ボランティアの森林づくり実践で地球 温暖化防止に努めましょう!	札幌市	小林 文男	11
8	観察会で心がけていること	旭川市	室屋 安雄	16
9	冬の登山観察会		事務局	19
<連載>				
10	春・カムイの住む森—野幌	札幌市	小泉 三雄	21
11	やっぱり現地で見てみたい! (4)	江別市	内山 恭子	22
12	忘れ得ぬ花たちII	当麻町	野呂 一夫	24
13	「暑寒別岳」 その2	増毛町	谷 志朗	26
14	登山計画届	富良野市	南部 栄一	28
15	<小樽支部から>	小樽市	北原 武	32
16	小樽支部の冬の観察会から		北海道新聞から転載	34
<事務局から>				
17	18年度 観察会・研修会の予定			35
18	武田千恵子からの挨拶、事務局から			36

編集後記

新しい年度を迎えて

会 長 川 端 功 治

緑が一杯の野原に飛び出して、思い切り背伸びをし、おいしい空気を呼吸したい春が訪れました。

各地で賑やかに自然観察会が開催され、今年はどうな話題がとびだすことだろうか楽しみなことです。本州並みに花粉症の問題等は如何でしょうか。スギ花粉については本州が猛烈で、道南ではスギ植栽地が散在しているので、あまり花粉騒動の話題は無い様ですが、あってもマスク対応で処理されているのでしょうか。外来種のブタクサは町内会の刈払運動で姿を消したかに見えましたが、郊外にはタツプリありますので油断は出来ません。

シラカンバについては既に民家に近い立木は伐採されているようですが、何しろ全道をカバーする大群落の為医学的防除法の開発を待つばかりと言うところでしょう。

治山治水はプロの分野であります、其の工事の効果を頂くのが我々受益者であり、粗漏工事の被害者にもなりうる立場でもあります。堰堤のセメント工事に大型の石が使われていれば崩壊し易いセメントをケチった粗漏治水工事です。治山工事で斜面に安価な量産された針葉樹を植えておれば将来、一斉に倒壊する運命にあります。当然の事ながら根張強い広葉樹でなければなりません。

これは変わった工事のことですが、今はときめく知床世界遺産に続く中津川の湿原地帯の開発工事のことなのです。自然愛護者の異議を押し切って曲がりくねったカーブを直線化したところ、農業牧畜水産業から期待した成果が得られず、また元のカーブ川に戻したという。これは去る3月9日の道新で報道されたのは市民団体に顛末の報告会の内容とあります。巨額の国民のお金を浪費して何が面白いのか、等の鋭い質問はなかったらしいです。聞くところによれば、貴重な湿原植物は全滅し、外来植物と、その辺にはびこる雑草に占領されてしまったそうです。

私達は生活や会合で発言し得る場が沢山あると思います。今年は大いにお喋りをする年としましょう。これはよい考えだと思ったら積極的に発言しましょう。このことが当会を発展させる最高の道のりと信じております。

川端会長 叙勲

3月28日付けで、川端会長が「瑞宝小綬章」を叙勲されました。大変光栄なことで、当会としてもお祝い申し上げます。

野草・雑草

江別市 中西敏雄

自然観察を含め、路を歩いていると必ず何種類かの野草を見ることが出来ます。白、ピンク、黄色等可憐な花が咲いている様子を目にしたときは心も和みます。

そんな野草も生育している場所や環境によって、貴重品扱いとなったり目の仇にされたりします。

たとえば、山や自然公園等に生えている野草は、自然観察の対象となって大切に扱われ、葉や枝を折ることも許されない状況になります。自然公園の中で葉や枝を採ってしげしげと眺めているとき、腕章をつけた方に出会うと、いけないことと叱られます。

しかし、同じ野草でも畑や田んぼに生えると、作物の収量や品質が低下するといわれて、今度は除草剤を使って徹底的に排除される雑草となるのです。

道ばたでよく目にするイヌタデ、エゾノギシギシ、コシカギク、アカザ、スズメノカタビラ、エノコログサ、イヌビエ等々は畑作物にとっては強害雑草なのです。たとえ1本でも生えていることは許されないのです。また、除草は農作業の中で一番労力のかかる作業です。このため、食の安全・安心の原点とされる、有機栽培法が普及しない大きな原因の一つにもなっています。夏の小麦畑では白い花を咲かせるイヌカミツレやシカギクが目立つ所もありますが、そのような畑では収穫作業の能率を下げするため、コンバインの料金が高くなります。

湿地や沼等で見かけるオモダカやヒルムシロ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズアオイ等は田んぼに入ると同様に雑草として排除されます。特に、ミズアオイは絶滅危惧種とされていますが、田んぼでは強害雑草のひとつです。除草剤が効きづらいこともあって、農家から嫌われています。

ミズアオイは水の移動や白鳥、ガン類の糞によって運ばれその分布幅を広げている状況にもあります。稲の穂が出る頃に紫色の

きれいな花が咲き、道行く人の目を楽しませてくれるのですが、生産者の方の視点から見ると、困った草が増えてきたと頭を悩ましています。生産者同士の間では放置しておくことはすなわち、栽培管理が不十分との印象を強く与えるからです。

同じ草でありながら生育している場所や環境によって、その価値は大きく変わります。自然公園などでは野草として観察の対象となって大切に扱われたりしますが、同じものが畑や田んぼに生えると、雑草として農家からは徹底的に嫌われます。すべて人間の好き嫌いや経済活動のなせるものですが、人間の傲慢性や身勝手さもうかがえます。人間の私。気をつけなければと常々思うことです。



絶滅危惧種とされる「ミズアオイ」も田んぼに生えると強害雑草です。(写真は中正憲佑氏)

「サッポロカイギュウ」と

小金湯温泉近傍の山々

札幌 青山 幸広

札幌市街より、国道230号線を豊平川沿いに定山溪に向ってマイカーを走らせること約40分、小金湯温泉手前で砥山地区果樹園の緑豊かな樹林帯と岩峰群、鋭く尖った山々が見えてきます。

黄金色（硫黄泉）に輝く温泉浴と、さくらんぼ・桃・りんごの甘い香りのフルーツ園・小金湯地区一帯（札幌市）が太古の昔「海」だったとは一。

平成14年6月、南区藤野に住む小学6年生のお嬢さんが「化石らしきもの」を河床で発見した記事を読んだ。翌平成15年8月、市博物館学芸員と学識者によって、その化石がタキカワカイギュウより古い国内最古の（500万年前）「海牛化石」と認定され、平成17年度の調査では約820万年前のものと鑑定され、本年度世界最古であることが確認された。

体長7mほどの海に住む哺乳類の中で唯一の草食動物であり、現存する「人魚」ジュゴン、マナティーに似ており、「サッポロカイギュウ」と命名された。ヒトと同じ胸部に乳房があって、両手で赤ちゃんを抱いて授乳していた愛くるしい動物を想像します。

周囲の尖った山々は火の山で、岩峰は噴火活動を物語っています。アパッチ砦のような神威岳、ノコギリ状の八剣山、露岩の砥石山、柱状節理の硬石山、国道を挟んで藤野三豊山（ピラミッド型の豊平山〈別名：焼山〉、豊栄山、豊見山）と秀峰・藤野富士の600米級の山々が並んでいる。

実は私、この界わいで「水力発電」の仕事に従事しており、四季折々の豊平川と山並みに接しています。化石発掘箇所もテリトリーの一つです。最近、融雪期のみ生きたカイギュウが出現して驚かされています。

アウトドアの「ラフティング」です。豊平川は4月上旬から5月下旬頃まで山の雪融けで増水し、この時期を狙ってニセコ方面の業界さんがツアーで入川するのです。体長6～7mの赤・黄色の派手なゴムボートに8名程の人が乗船し、急流を猛スピードで流下していく様が、海牛の回遊する姿を創造させてくれる。まもなく出現しますので是非当地にいらして下さい。

折角ですので小金湯温泉地区をナビゲーターいたします。

定山溪温泉街まで車で約5分、3軒の温泉宿があり、冒頭で説明した通り硫黄泉で黄金色に湯質が輝いているのが地区の由来名となっています。

樹齢700年、胸回り5mの“かつらの木”が当地のご神木として大切に保存されており、黄色の葉が秋には風に揺れて金色に輝くんです。

温泉宿の300m上流には水力発電所用の高さ30mのコンクリートダムがあります。レイク（湖）には今、キンクロハジロ、マガモ、カイツブリなどの野鳥たちが羽をやすめています。早朝にはヤマセミ、カワセミも飛来してきます。5月GW(ゴールデンウィーク)頃には“幸福の青い鳥”オオルリも姿を現します。

秋には湖面に紅葉が映しだされ、これから春は野地にオオウバユリの葉とエソエンゴサク、水芭蕉があちこちに咲き乱れます。夏、神威岳の登山口付近に支笏湖ブルーにも似た“エソアジサイ”の群落がいちめんに一。

また銭函の海から、春香山を越えてカモメのジョナサンも遊びにきます。

一昨年完成したアイヌ文化交流センターも温泉内敷地内にあり、舞台ホールは一見の価値がありますよ。

こちらの方面に来る機会がありましたら、「サッポロカイギョウ」を訪ねて一休憩されては如何でしょうか。本紙が届く頃には、札幌名山「百松沢山」南峰めざしてツボ足登山中だと思えます。

日本産ザゼンソウ属の分布—特にナベクラザゼンソウについて

札幌市東区 小泉 三雄

北大植物園 富士田裕子助教授より戴いた〈研究ノート〉より抜粋します。

ザゼンソウ属は、東アジアと北アメリカに2種あるいは3種が知られている。その内東アジアと北アメリカのザゼンソウをそれぞれ別種として扱った場合に3種となるが、現在では同種の種内変異として扱われているのが一般的である。

日本においては、ザゼンソウとヒメザゼンソウの2種が知られている。ザゼンソウは心臟形の葉身と大きな仏炎苞、葉の展開に先立って花が咲くことを特徴とし、北海道から中国地方以东の本州に分布している。

一方、日本産ザゼンソウ属にもう1種存在することが判明し長野県北部の飯山市鍋倉山産の標本に基づいてナベクラザゼンソウが記載された。ナベクラザゼンソウは腎円形の幅広い葉身と小さな仏炎苞、葉の展開と花が咲くのがほぼ同時であること、また、仏炎苞の全体が地上に出ていることで特徴づけられる。

このナベクラザゼンソウの分布を明らかにするため、東大総合研究博物館植物部門他多くの植物標本庫にあるザゼンソウ属の標本を検討した結果、東北地方から北陸地方にかけての日本海側の地域に分布することが明らかになった。

日本産の種類と分布

日本産のザゼンソウ、ヒメザゼンソウ、ナベクラザゼンソウの3種の検索を以下に示す。

A葉身は幅広く心臟形か腎円形。果実は花と同じ年に熟し、葉は秋に枯れる。

A葉身は細長く卵状心形から卵状長楕円形。仏炎苞は小形で果実は翌年に熟す。花は葉が枯れかかる初夏から夏に咲く。 ----- ヒメザゼンソウ

B葉身は心臟形で、横より縦の方が長い。花は春咲き、仏炎苞は大形 -----

ザゼンソウ

B葉身は腎円形で、縦より横のほうが長い。花は初夏から夏に咲き、仏炎苞は小形

ナベクラザゼンソウ

アオザゼンソウ

生き物の多様性について

北広島市 今 善三郎

人里に多い雑草の代表「アキノエノコログサ」は、「ねこじゃらし」の愛称で親しまれています。雑穀「アワ」は、今から7～8千年前にこの種から改良されたものだそうです。そして今、私たちの食べている食物は、すべて野生のものから改良された食品です。

何千年もかかった品種改良を、科学技術で人工的に改良したのが遺伝子組み換え作物です。生化学界で20世紀最大の発見は、DNA構造の解明といわれています。人間も植物もすべての生き物はアデニン(A)、グアニン(G)、シトシン(C)、チミン(T)という4つの塩基からDNAは出来ている、ということです。遺伝子という難しい学問はメンデルの法則でいられていますし、今日医学をはじめあらゆる方面で活用されています。

この技術を利用して開発された農作物をGM (genetically modified) といいますが、わが国では9年前から安全性審査を終えたGM作物は食品として流通しています。代表的な作物には大豆・トウモロコシ・ジャガイモ・ビート・ナタネ・綿・アルファルファの各耐除草剤、耐害虫、耐ウイルス等に改良したものです。食用油や醤油等はすべてGM製と見てもいいでしょうし、市販の納豆・味噌等も、100%のものは考えられません。わが国にはGM製食品を不安視する消費者は多いのですが、自給率40%という事実をみれば、農産物の流通上仕方の無いことです。大豆だけみても、年間700万T消費のうち300万Tは米国から輸入しています。米国の大豆は87%以上GMだからです。残りのほとんども同様です。主要輸入国のアルゼンチン製大豆は99%GMです。

私たち消費者も、もう少し科学的、道徳的、合理的に物事を考えなければなりません。GM製品を食べたら「何々になる」式のことは、少なくとも自然観察指導員は吹聴すべきではない、と思います。牛肉を食べても牛になりません。米を食べても稲にはなりません。すべての有機質は無機質となって消化されますし、人間は人間の身体を作ります。

植物を始め生き物の世界は長い間の進化と環境等による多様性に裏打ちされた事実で満ち満ちている、とある生物学者は言っています。生き物の新種誕生や進化、絶滅した種は自然界における淘汰に対応できなかったか、それを達成できた種につくる、と。(近100年間、人間社会の発展は自然界の進化や淘汰のスピードをも上回ったが)

地球上に5千万種の昆虫がいる、と推定する学者もいますが、毎年何千・何万の新種が発見され、同等の数が絶滅していることを思えば、自然界に適応できたか否か、は人間にも当てはめることが出来るのではないのでしょうか。自然観察はその多様性を頭と身体で理解することだと思います。木を見て森を見ていないのでは、と反省しています。

— GMをめぐる誤解をとくためには、消費者が従来技術で培ってきたこれまでの農作物の育種方法と農業の実態を知り、毎日食べている食品の安全性を正しく理解すること、と日野 明寛博士は言っています。(生物の科学「遺伝」2006年3月号より)

ちなみに私は友人たちとわずかな家庭菜園で野菜・芋等を作っています。

原始の自然の息吹が残る北方四島

—— 北大の富士田さんの講演、日口の学術調査などから ——

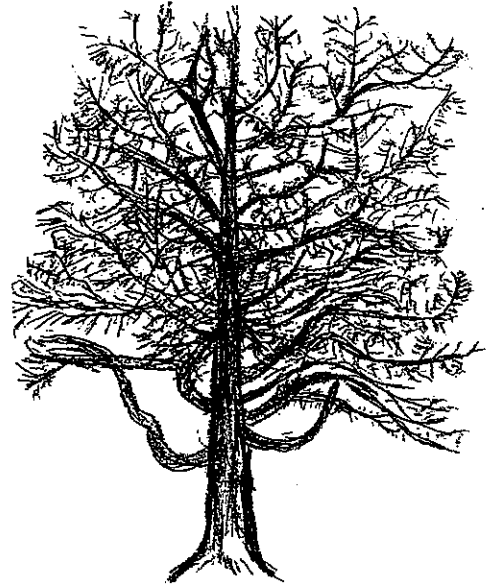
北広島市 佐藤 清一

世界遺産になった知床、そこから雁の飛行配列のようにのびる北方四島の自然はどのようなになっているのか、道東などどのように連続しているのか、それとも海を隔ててそこでは非連続になって寒冷の植物たちが生い茂っているのか、そうした関心をもってきた。元島民や学術研究者など一部の人たちしか渡航ができないこともあって、なお見られない自然をぜひ見てみたいと思っていた。

それはかなわぬ望みであるが、昨年(2019年)の3月、わが街・北広島で北大の富士田裕子さんのスライドを用いた講演会「北方四島の自然を訪ねて」があって、植物の分布状況などがかなり理解することができた。それによると、植生などは道東と連なりほぼ同じようであるが、北海道では絶滅してしまったグイマツなどがあつたり、かなりの地域に原始の自然の姿が残っているようである。この四島は、北海道と同じように、南からの冷温帯の植物と北からの亜寒帯の植物が接する地帯である。樹木でいえば、ミズナラ、ハルニレ、ウダイカンバなどの落葉樹とエゾマツ、トドマツなどの針葉樹がせめぎあい共存している地域といえる。当然のことでもあるが北に向かって冷温帯の高い樹木などは少なくなっている。ブナ林の黒松内低地帯から北方四島まではほぼ汎針広混交林と位置づけることができるそうである。(『北海道の樹木』 道新)

そうした連続性のなかにも、かつて北海道に広く分布していたにもかかわらず今では絶滅してしまったグイマツ(シコタンマツ)が色丹島、択捉島などでは生きのびているそうである。多分、この北の大地では気候の温暖の時期もあって滅んでしまった、と言われている。グイマツは成長も速く2.5mにもなる落葉高木。枝は水平にのび樹冠は大きく広がり円錐形をなしている。野ネズミなどの被害も少なく材は堅く建築材に適しているようである。

また北の大地の海岸では、ハマナスなどは小さな群落となってしまうが、国後島では見事な大群落を形成している。礼文島に見られる丈が1mにもなる青紫色ハマベンケイソなども大きな群落つくり原始の美しい姿を今日にとどめているそうである。さらに、わが大地を象徴し、かつわ



グイマツ

が機関誌の題名ともなっている「エゾマツ」、それが砂丘の上にも堂々と生い茂っていて、そうした景観はとても珍しく世界には2カ所しかないそうである。

北大とロシアとの研究者との間で、1999年北方四島の最高峰、国後島の爺爺岳（チャチャ岳）の火山の状況を中心とした調査が行われ、その様子は「朝日新聞」に連日大きく報道された。チャチャ岳は1882mの二重式成層火山で、以前から爆発を繰り返し1973年には大噴火をおこし根室地方にも火山灰を降らした。今日も活動をつづけている。その山頂の上空は日本と北米とを結ぶ飛行ルートのことでもあって、この山の火山活動を中心に植生を含めて大きな調査が必要でもあったようである。

この山の主な植生は、海岸の周囲では知床と同じでオオイタドリ、オオブキ、中腹ではウコンウツギ、イワブクロウなどが多く、山頂の周囲ではコマクサ、エゾツガザクラ、ミネゾウなどの大きな群落をつくっているそうである。植物の種類は少なく単調なようでもあるが、でも所々に珍しい白いコマクサなどもあるそうである。山親父もかなり多いようだ。

チャチャ岳という先住民アイヌの人たちが名付けた名前がそのままロシア語となって残っているのはうれしいことだ。知床から北千島にかけてチャチャヌプリ（最長老の山、地域で最も高い山）という名のつく山が3つあって、知床の羅臼岳もそう呼ばれていたが、今日では国後島のこの山のみである。アイヌの人たちが自然への畏敬の気持ちをもって名付けた地名を残してほしいものである。

海洋生物、鳥類などにはまったくふれることはできなかったが、アザラシ、トド、鯨類、オオワシなどが行き来してとても豊かな海の生態系をなしている。海



鳥エトピリカなどは根室半島付近にはかつて1000羽位もいたが、今日では20羽位に激減してしまっている。択捉島では1000羽余りも確認されているようである。

豊かな生態系が残る北の島々であるが、旧ソ連がここを軍事拠点にしていたために人口密度も少なく、自然保護区も厳しく守られてきたことによると思われる。

今後とも海洋生物の乱獲などすることなく豊かな生態系を残してほしいものである。できれば、知床から北方四島までを一緒に世界遺産に登録してほしい。

ボランティアの森林づくり実践で

地球温暖化防止に努めましょう！

小林 文男

はじめに

ボランティア・レンジャー仲間みなさまには、道内各地域での活動振りを「エゾマツ」さんの、春夏秋冬号を通して楽しく拝見させていただいております。

ところで、本号（春季号）では自然、環境にかかわっての原稿とのことでしたので、身近な野幌森林公園の風害跡地の再生と、18年度自然観察等の計画あれこれを投稿させていただきました。

I 野幌森林の再生「かたらふの森」

2004年9月18号台風の猛威は、野幌森林の国有林・道有林を合わせて被害面積90％ともいわれました。

この森の再生に向けて関係機関では早々に再生委員会を組織し、検討結果として再生の方向性やら実施方法等が打ち出されました。

被害地の森林整備の目標は、「野幌の100年前の原始性が感じられる森林づくり」が方向づけられました。

また、その実行形態の一つとして市民参加型の森林づくりが打ち出され、これを受けて17年度には12団体の参加申し込みがあり、当森林遊びサポートセンターもその一員として再生に取り組むことにしました。

当センターでは再生テーマ“野幌の100年前の原始性を感じられる森林づくり”を、祖父母から孫まで2～3世代にわたって集い、地域の人々みんなでつくるこの森を「かたらふの森」（古語辞典から引用）と呼ぶことにしました。

この実践では、天然力の活用を図りながら、植え付け樹種の選択も針葉樹トドマツ・アカエゾマツ等と、広葉樹では巨木を期待してカツラ・ミズナラ等と、自然散策や野鳥・小動物等のために、花や果実を实らせ

るナナカマド等 9 種類 600 本の苗木を植えました。

この作業には、小学生の明るい元気な子どもたちとそのご家族や、大学の植林クラブや高校生のグループ等の参加もあり、それぞれ親睦を図りながら森と仲良しになったり、環境保全に対する理解を深める機会にもなり非常に和やかな森づくりになりました。

このような雰囲気の中で、つぎのような参加者の声がありました。

☆ 大学植林研究会・会員の声

T. I 君

晴れ渡った空と心地よい緑の風、小鳥のさえずり、こんな中で小さな力ではあるけれど自分の手で森の再生を願いながら苗木を植えることができた体験は、決して一時の思い出にはとどまらない貴重な「時」になったと思います。

また年の違う先輩方の森に対する思いが、私たちと共通のものであると交流を通じて深く伝わり、とても嬉しく感じました。

N. S 君

普段、机の上で勉強している私にとって、環境問題を専門としていない人々の環境問題に対する意識の高さに感動し、また勉強になりました！ありがとうございました。

これからも活動を続け、多くの人と環境問題について考えられる場を守って下さい。いつかまた参加する時はよろしくお願いします。

☆ 参加できなかつた小学生からの手紙

野幌森林公園での植林活動のとき、木に名前をつけてくれてどうもありがとうございました。子どもが来れば、植えた木に名前をつけてくれると、おばあちゃんからきいたので行きたかったのですが、ちょうど運動会の前日登校日だったので行けませんでした。

おばあちゃんが参加して、会長さんをお願いしたら、今日はとくべつにいいですよといってくれたとききました。

学校が休みの日にもう 2 回も見にいきました。写真も 6 枚もとりました。これから大きくなっていくのがたのしみです。会長さん、どうもありがとうございました。

以上昨年参加した方々の声の一部を抜粋しましたが、これからもこの森を、「かたらふの森」として「野幌の100年前の原始性を感じられる森づくり」の活動に地域のみなさんと取り組んでまいります。

Ⅱ18年度森林遊びサポートセンター行事あれこれ

別紙計画表を参照

今年の主な森林づくりボランティア

- 野幌森林公園「かたらふの森」下刈作業2回
- 札幌市民の水源の森・奥定山溪国有林下刈作業2回
- エンジュダイラ国有林・除伐・風景整備作業2回
- 札幌市都市環境林「藤野野鳥の森」除伐作業2回

おわりに

私どもの森林遊びサポートセンターでは別表計画書のとおり、森林づくりや自然観察等癒しを含めての行事を予定しております。

地域の人々と共に、下刈から除伐や風景整備作業等と、併せて森林や樹木等を利用しての森林遊びを行いながら、自然環境保全等の理解を深めてまいりたいと考えております。

この行事の実行に際しては、ボランティア・レンジャーのみなさまのお力を借りながら、前記目的達成に努めてまいりたいと願っております。

◎ 連絡先

NPO法人 森林もり遊びサポートセンター

事務局 〒061-2284 札幌市南区藤野4条2丁目5-32

TEL & FAX 011-592-1030

E-mail fumio@rapid.ocn.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.moriasobi.jp>

小林 文男 宛

平成 18 年度

森林づくりのボランティア&自然観察癒しの旅計画表

月 日	曜日	行 事 名	集合場所	集合時間	備 考
3 21	火	都市環境林藤野野鳥の森ボランティア・トドマツ除伐作業	地下鉄真駒内駅前	8:30	参加費 無 料
3 30	木	エンジュダイラ国有林ボランティア除伐・風景整備作業	地下鉄真駒内駅前	8:30	参加費 無 料
4 4	火	都市環境林藤野野鳥の森ボランティア・トドマツ除伐作業	地下鉄真駒内駅前	8:30	参加費 無 料
4 9	日	エンジュダイラ国有林ボランティア・除伐・風景整備作業	地下鉄真駒内駅前	8:30	参加費 無 料
5 21	日	日高の深山路花と旬・岩場に可憐に咲くユキワリコザクラ観察	大通りテレビ塔下	7:30	参加費 4.500 円
6 3	土	藤野小鳥の村登山と花観察と藤野マナスル登山	地下鉄真駒内駅前	9:00	参加費 3.000 円
11	日	親子で自然ふれあい・「子ども樹木博士」認定	テレビ塔下 真駒内駅前	8:00 8:30	参加費 1.000 円
25	日	かたらふの森ボランティア・下刈作業	大通りテレビ塔下	8:30	参加費 無料
7 2	日	札幌市民の水源の森ボランティア・下刈作業	テレビ塔下 真駒内駅前	8:30 9:00	参加費 無料
16	日	かたらふの森ボランティア・下刈作業	大通りテレビ塔下	8:30	参加費 無料
23	日	札幌市民の水源の森ボランティア・下刈作業	テレビ塔下 真駒内駅前	8:30 9:00	参加費 無料
8 1	火	積丹半島秘境探訪・海岸風景と花探訪	大通りテレビ塔下	7:30	参加費 5.000 円
10	木	雷電山麓の秘境沼・コックリ湖探訪	地下鉄真駒内駅前	7:30	参加費 4.500 円

月 日	曜日	行 事 名	集合場所	集合時間	備 考
9 2	土	白井川市民の森散策	地下鉄真駒内駅前	8:30	参加費 3.500 円
21~22	木金	紅葉の表大雪・大雪高原沼めぐり	大通りテレビ塔下	13:00	参加費 17.000 円
28	木	沖里河山から音江連山縦走尾根下り	大通りテレビ塔下	7:30	参加費 5.000 円
10 1	日	紅葉と滝探訪・旭岳温泉から天人峡温泉下りコース	大通りテレビ塔下	7:10	参加費 5.000 円
15	日	夕張冷水山登山と紅葉の滝の上公園散策	大通りテレビ塔下	7:30	参加費 4.500 円
22	日	紅葉の島松山登山と恵庭湖白扇の滝散策	大通りテレビ塔下	8:30	参加費 4.000 円

☆ 参加めも

◎集合場所から現地往復はバスを運行します

- ◎ 3月21日から4月9日までの期間に参加の方は、カンジキを持参してください。ない方は貸しカンジキもあります。
- ◎ 「かたらふの森」に直接集合される方は、大沢口駐車場に9:00までに集合してください。

◎ 参加等連絡先

事務局 〒061-2284 札幌市南区藤野4条2丁目5-32

TEL & FAX 011-592-1030

E-mail fumio@rapid.ocn.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.moriasobi.jp>

※年間計画書や活動のリンク集等ご覧ください

小林 文男 宛

観察会で心がけていること

第18回 ボラレン研修生 室屋 安雄

当会誌75号(冬季号)で「草花と楽しむ」を寄稿させて頂き、続けての寄稿依頼に四苦八苦しました。

昨年、北海道教職員互助会(特別会員)旭川支部主催軽スポーツ研修『旭岳姿見の池高山植物観察トレッキング』(7月26日実施)に講師としてお誘いを受けたことについて思いつくまま記述しました。

案内するには、第一に下見が欠かせません。そうでなくても未熟な私にとって、草花の名を見極めることが先決です。

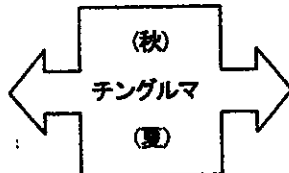
私は、必ず観察会の一週間前、下見することに決めています。丁度、会の仲間に超ベテランのK氏と担当役員も同行して頂いたので心強く、資料の収集も順調に進みました。

初めは、草花の名と咲き誇る場所の確認と併せてデジカメによる撮影です。観察会当日には、参加者全員に写真パネルと植物一覧表を提供(別紙参照)することにしています。これがなかなかの好評で(自賞自讃)退職後身につけたパソコンの技術を生かせる場として喜びを味わってます。

植物名の説明には、漢字表記にしてから話すことにしています。アオノツガザクラは『青梅桜』とさらに『アオ(青)・ツガ(梅)・サクラ(桜)』と切って発音することも付け足します。これにより、名前の由来や意味を早く覚えて頂けるのではと考えています。

また、観察会のメインとなる草花を一つ決め、出会うたびにその話をします。今回は、「チングルマ」に焦点を当て、バラ科・落葉低木・紅葉の美しさ等、やや詳しく付け加えました。終盤になると、自ら「チングルマ」を見つけ満足げに草花と会話する場面もありました。

多くの仲間と大自然の中を、ゆっくり・ゆったり草花と会話しながら歩めるひときは、私にとって最大の幸せであります。

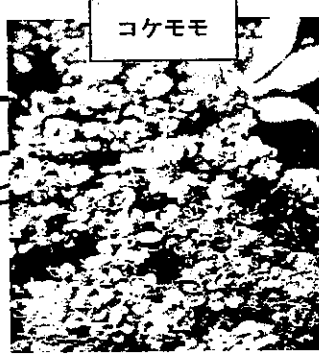


旭岳・姿見の池高山植物観賞トレッキング

平成17年7月26日



エゾイソツツジ



コケモモ

姿見の池



シウジョウバカマ



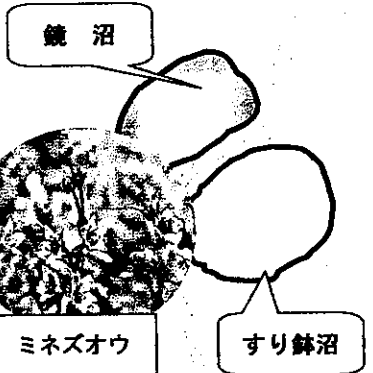
アオノツガザクラ



エソツガザクラ



チンゲルマ



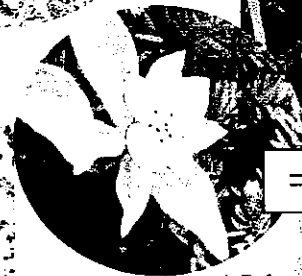
ミネズオウ



ジムカデ



キバナシャクナゲ



ゴゼンタチバナ



メアカンキンバイ



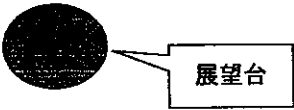
マルバシモツケ



イワヒゲ



ウラジロナナカマド



展望台



姿見の池駅

旭岳・姿見の池高山植物観賞トレッキング (着色は花の色)

平成17年7月26日

No.	確認	植物名	科名	備考 (漢字表記)
1		アオノツガザクラ	ツツジ	青楓桜
2		イソツツジ	ツツジ	磯薔薇 (エゾイソツツジ)
3		イワヒゲ	ツツジ	岩髭
4		イワブクロ	ゴマノハグサ	岩袋
5		ウコンウツギ	スイカズラ	鬱金空木
6		ウラジロタデ	タデ	裏白蓼
7		ウラジロナナカマド	バラ	裏白七種
8		エソオヤマリンドウ	リンドウ	蝦夷御山竜胆
9		エソコザクラ	サクラソウ	蝦夷小桜
10		エゾノツガザクラ	ツツジ	蝦夷楓桜 (コエゾツガザクラ)
11		ガンコウラン	ガンコウラン	岩高蘭
12		キバナシャクナゲ	ツツジ	黄花石楠花
13		クロマメノキ	ツツジ	黒豆木
14		コガネイチゴ	バラ	黄金苺
15		コガネギク	キク	黄金菊
16		コケモモ	ツツジ	苔桃
17		コバイケイソウ	ユリ	小梅蕙草
18		コマクサ	ケシ	駒草
19		コメガヤ	イネ	米茅
20		ゴゼンタチバナ	ミズキ	御前橘 (エゾノゴゼンタチバナ)
21		ショウジョウバカマ	ユリ	猩々袴
22		シラタマノキ	ツツジ	白玉の木
23		ジムカデ	ツツジ	地百足
24		チシマニンジン	セリ	千島人参 (シラネニンジン)
25		チングルマ	バラ	稚児草
26		ハイマツ	マツ	還松
27		マルバシモツケ	バラ	丸葉下野
28		ミツバオウレン	キンポウゲ	三ツ葉黄蓮
29		ミネズオウ	ツツジ	峰蓀坊
30		ミヤマアキノキリンソウ	キク	深山秋の麒麟草 (コガネギク)
31		ミヤマイ	イネ	深山蘭
32		ミヤマキンバイ	ツツジ	深山金梅
33		ミヤマリンドウ	リンドウ	深山竜胆
34		メアカンキンバイ	バラ	雌阿寒金梅
35		ワタスゲ	カヤツリグサ	綿菅
36		キンスゲ	カヤツリグサ	金菅
37		クロウスゴ	ツツジ	黒臼子 (クロマメノキ)
38		コメバツガザクラ	ツツジ	米葉楓桜
39		ハクサンボウフウ	セリ	白山防風
40		ヒメイワショウブ	ユリ	姫岩薺蒲
41		ホソバノキソチドリ	ラン	細葉木曾千鳥
42		ミヤマクロスゲ	カヤツリグサ	深山黒菅
43				
44				
45				

※ 全体の着色は、資料に写真掲載分

冬の登山観察会

例年、1月と2月に計画している、円山登山、藻岩山登山の観察会が無事終了しました。一般参加人数につきましては、PR活動に反省点はあったものの、冬の運動不足解消も兼ねた楽しい観察会になりました。

円山登山観察会(1月15日)

今年の札幌は積雪量が多く、集合場所の大師堂の屋根も建物もすっかり雪に覆われていました。この大師堂には弘法大師像が祭られています。出発時刻10時をめぐりに行動開始です。

スタートしてすぐの急登を登りきると、カツラやセンの大木が目に入ります。いつもですとこの時期、カツラの根元にエゾリスが顔をだすのですが、今回はその姿を目にすることができません。

円山は、山全体が天然記念物として指定され大木も多く、樹種の多様さが知られています。大正3年に登山道が開削されたといいますが、冬もこの登山道沿いに踏み跡がつけられています。一般参加者のなかに、名古屋からきた女性の方が、雪のふみ跡に足元をとられながらも、周囲の雰囲気や樹木に興味津々の様子です。

途中、ウソの群れを発見しました。嘴の下の紅色が目立つオスのそばにはメスの姿もみられます。十分にウソの姿を観察できました。

小1時間で、頂上につきます。うす曇りで、遠望がききませんが札幌の町並みが一望できます。頂上には、山神碑が雪の中に立っています。この山神碑は明治5年に建てられたといわれていまして、その後、碑は山腹に転げ落ち埋もれていましたが、昭和21年、現在の台座におさめられた経緯があります。

下りは、動物園横にでるコースをいくことにします。途中登ってくる数人のグループと交差しますが、だれもが冬の自然を楽しんでいる様子がかげえまます。一昨年秋の台風で倒れ樹木のなかのキタコブシはけなげにも倒れた姿で、枝のあちこちに花芽をつけています。生命力の強さに感心しながら動物園横のフェンス沿いにでます。春になるとこのフェンス沿いには、可憐な花が咲きそろうのですが、今は踏み跡をどんどん進みます。

杉の林に入ると、登山口はすぐそこです。ちょうど12時に、スタート地点に戻りました。

このスタート地点の小川ではミソサザイやカツラの種を食べるマヒワが見られるのですが残念なことに今日は見られませんでした。名古屋から来たという女性の満足した感想を聞いて、この観察会の目的が達せられたように感じたのでした。

藻岩山登山観察会(2月5日)

前日のコース下見は吹雪模様で、ともかく頂上までいったという状況でした。当日は、登山口の駐車場で、車がスリップしていたりしていましたが、コースは早くから登っている人たちが多く、ふみ跡がしっかりしているようです。

昨日の吹雪模様の影響か、一般参加者はすくないけれど、会員は6名集まってきました。

慈恵会コースの登山口を定刻10時に出発しました。登ってすぐの所のコース沿いに例年確認しているエゾモモンガの巣穴があります。巣穴の下には、昨日降った雪上に糞などの排泄物が見られ、今年も巣が使われていることを確認します。この近くには、昨年クマガエラの営巣地も見つかり、藻岩山の自然の豊かさを感じます。しかし、一昨年秋の台風跡もなまなましく、尾根筋に上がる部分には樹木が倒れたままになっています。下見の際に確認したウリノキの幼木を横にみながら登っていきました。

尾根筋から西側を望むと、手稲山、百松山、砥石山が見えます。野鳥の姿を探しながら行くのですが、今日はほとんど姿や鳴き声が確認できません。昨日の荒れた天気の影響でしょうか。コース沿いのシナノキやハルニレの冬芽が心なしか膨らんでいるようにも見えます。ハウノキ、シウリザクラ、オオカメノキの冬芽やツルアジサイ、イワガラミ、マタタビなどの藤本類を見ながら登っていきました。

頂上直下の急登をいくつかジグザグをきると、頂上の展望台が見えてきました。登山者専用のプレハブ休憩小屋で昼食をとります。他の登山者のみなさんと、おやつの交換をして、ゆっくりと休憩を取りました。

下りは、青空のもとをゆっくりと歩いていきました。春から夏にかけて、このコースには色とりどりの野草が見られます。特に、モイワの名を冠したモイワシャジン、モイワナズナ、モイワランなどが有名です。また、樹木では、モイワボダイジュの名もあります。

1時間ほどで、登山口に戻りました。トラブルもなく、冬の運動不足をそこそこに解消できたし、雪の森も堪能できました。一般の参加者が少なかったことは、来年度の案内方法や時期の検討をする必要があるでしょう。

ともあれ、楽しい冬の登山観察会でした。

円山（標高225m）

円山は昔、モイワ（小山）と呼ばれたように、頂上付近に岩場がある小さな山でしたが古くから、藻岩山とともに札幌の市民に親しまれてきました。（モイワの名は明治になってからとなりの藻岩山に移っています。）

札幌の中心部からみると頂上北西尾根に小さなコブ（峰）があるので、大小2つのおわんを並べたような形に見えます。

藻岩山（標高531m）

アイヌの人たちが「インカルシュペヌプリ（いつもそこに上って眺望する所）」と呼んでいたとおり、頂上からは札幌の街並みをはじめ、はてしなく広がる石狩平野さらに遠く日本海を望むことができます。

1921年（大正10年）には円山原始林とともに北海道で第1号の天然記念指定地域に指定されました。

春・カムイのすむ森～野幌

札幌市東区 小泉 三雄

‘03年4月17日(木) 晴れ

美声のウグイス、黄金色に輝くフクジュソウ、「フキノト」と呼ばれる花のつばみなどが頭を出し、早春という季節を演出している。湿地にはザゼンソウの姿、“雪消えのくぼ地に萌ゆるザゼン草、開祖の姿に皆耳すます”が思いおこされ、解説とあいなった

達磨和尚が座禅を組んでいるように見える花、背後に炎のような一枚の特殊な葉〔仏炎苞〕、これが光背(こうはい)に見えるその姿からザゼンソウ・ダルマソウ、花の悪臭からスカンクキャベツと呼ばれるザゼンソウの仲間は、野幌で(畝をまとった種もいる)ヒメザゼンソウをあわせて2種見ることができる。(日本にもう1種(幼葉が丸い)存在することが判明)光背効果という言葉がある調べて見ては、で終わった。

他にも観察会ではあまり興味をもたれないバイケイソウが明るい林床でぐんぐん伸びている。一見茎立ちしているかに見える若いバイケイソウには、実は「茎がない」。茎に見えるのは葉柄の重なり「ババナ」も同じです。不思議その顔、ある研究では開花まで90年以上と推定されている。自然界の知恵と生命のたくましさは、時に人の想像を超える。森には他にも隠された命のドラマがたくさんあると思う。

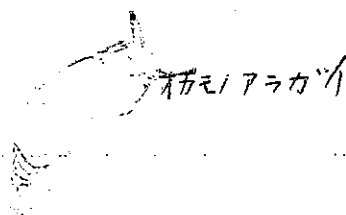
‘04年5月16日(日) 雨

若葉雨、林は驚くほど明るく以外と静かである。時に梢を渡る葉擦れの音、澄んだ鳥の囀り。今まで雨の降らない時だけ自然観察をして、自然をわかったよな顔をしていた

雨の中を歩いて、雨が自然にどんな影響を与えているのか少しわかったような気がした。イタヤカエデの根元で“あわ”立っている、「アワフキ虫だ」の一声、樹の幹を伝わって流れる樹幹流、灰色の樹皮に覆われた幹の内部から、確かに生命が伝わって来る、樹液と関わりないだろうか。雨の日に出会った、かたつむり「でんでんむしむしかたつむり♪」童謡に歌われた蝸牛(かぎゅう)は、でんでん虫と呼ばれても、虫でなく巻貝の仲間です。かたつむりといっても、殻(体層)の著しく長いオカモノアラガイ、鮎色に茶褐色の色帯のあるサッポロマイマイなど何種類もいる(14種ほど観察されている)足のうらから粘液を出しながら、ぴったり吸い付くように歩く姿、腹足と言われている筋肉の広い足を使って波打たせて進む。手の上に乗せて見てもらった。花期を迎えたニリンソウ、一花も開かず全て下向き、「がく片」は温度に敏感で開閉する、と言われている。今まで見てきたフィールドと趣を異にした、雨降りけっこうるんるん気分さえなった。



サッポロマイマイ



オカモノアラガイ

やっぱり現地で見たい！！ (4)

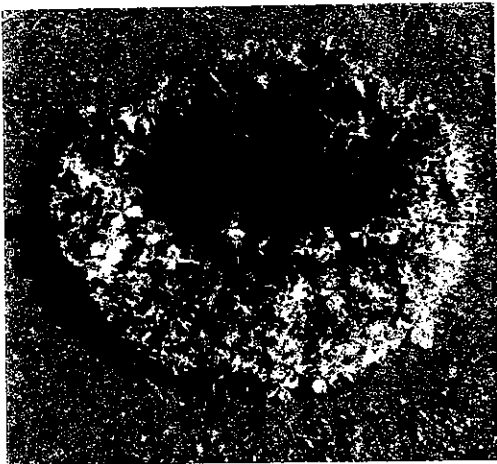
江別市 内山恭子

必要上、様々な材料でリースを作ってきたし、特にクリスマスリースは大きいものから小さいものまで毎年色々工夫してきましたが、オーストラリアにあるリースフラワー (Wreath leschenaultia) とよばれる花を写真で見た時は、自然界に存在するリースに驚きました。

「西オーストラリア州には独自の進化を遂げた珍しい植物が知られています。赤茶けた大地が地平線まで続き原野はカーペットを敷いたかのように花々で埋め尽くされる」という、旅行案内を読んだ時はすでに私の気持ちは西オーストラリアにとんでいました。

9月中旬オーストラリアの西にあるパースから600km離れたカルバリー国立公園まで花ウオッチングしました。車で1号線を北上し途中の国立公園に寄り道しては独特の変化にとんだ花々を見て、カメラに収め、時々脇道に入り両側が色とりどりのワイルドフラワーで溢れかえる場所で花を堪能しました。低いブッシュの中にバンクシア属、グレウィレア属、アカシア属などの大きく美しい花も混じって花園を作っています。その細かい赤土の一見乾燥しているような大地の中にもランの仲間が数種見られて驚きでした。

ピンク、白、黄色のムギワラギク (エバーラスティングの仲間) はまさしく花のカーペットです。現地の人は日本のお花見のように、この時期遠くの町から春を楽しみにやって来るそうです。特に雨の多かった冬の後には雪が降ったよう花が咲くそうです。ドライバーさんは花のために頻繁に車を止めてくれました。降りる度に今までに見ていない花に出会うので写真は撮りきれないほどでした。これが5日間続きました。皆、花に酔ってしまいました。



咲きはじめはクリーム色の
大きなリースです

人家もなく、すれ違う車もなく、走り続ける車は私たちだけです。トラブルなどひきおこしたらお手上げです。場所によっては隣まで数キロもあるそうです。ところどころ簡単なワイヤーが張ってあるのが見えるがそれは私有地とのこと。とにかく広いです。それ故か、国立公園も看板のみでその他柵一つ見当たりませんでした。

肝心のリースフラワーは少し内陸へ入ったコールシーム保護区付近にあるというガイドさんの情報で車は走りました。パースを発って今日で4日目です。皆もどんな所にあるのか興味津々で目は窓の外にくぎづけでした。あきらめ加減のとき車が止まった。

“あった”、“あれだ”と皆が一斉に声をあげました。カメラを片手にまっしぐらに目指す花へ。その時わかりました。皆の旅のお目当てもこれだったのだと。赤土の道路脇に丁度リースを無造作にポン、ポンと投げる様に9株咲いていました。まるでデコレーションケーキか華麗な花輪が並んでいる光景です。今まで見て来た光景とは別世界です。周囲は何も無い所です。花は淡いクリーム色から赤く変化していくのか二色使いで細かい緑の葉とのコントラストが見事です。株の大きさは30~50センチ、高さ10センチほどなのでとっても造形的でおもしろいです。

この花は (*Lechenaultia macrantha*) クサトベラ科です。匍匐性で年々株が大きくなるのでしょう、周りを見ると一枝だけ延ばした小さなものもありました。日本ではこの仲間が「初恋草」の名で鉢植えにして売られています。しかしこの広大な赤土に咲き誇るリースフラワーは別ものです。どう見ても限られた場所で、生育も難しそうな植物なのに何の保護もなく道端で咲いていて大丈夫かと心配になりました。皆、満足、大満足でした。

自然の造形美にはただただ不思議を感じます。これからも自然から感動をもらって生活していきたいです。4回も私の拙い話にお付き合い有難うございます。



6個リースが並んでいる様です

やっぱり変だった=エゾママコナ=

上川管内で、ママコナの自生は当麻ダムの周辺でしか確認していない。当時は美瑛町が勤務地で、当麻は縁もゆかりもない町だった頃、新年会の席で、草仲間から当麻ダムの辺りにママコナとかヒロハハナヤスリなど、珍しいものがあるらしいと聞いた。共に、実物に会ったことがない。

話が“らしい”だから、その真偽を確かめるべくその年の夏当麻ダムへ行った。初めての場所だから、まずはダムの全容を見ようと展望台へと向かった。展望台といっても、ただの小山である。辺りを見回していると、シラカバの林床に点々と赤い花がある。そこがママコナの群生地であった。



Fig. 2. *Melampyrum prostratum* Yamazaki. A: flower. B: habit.

早速標本を資料と照合すると、何かピンと
(図山崎氏の論文より) こないものがある。特に、花の下口唇の白い部分がおかしい。判然としていないのである。しかし、そこが素人の素人たるゆえん、いつしか花を訪ねるだけになっていた。

ところが平成元年、東大付属植物園の山崎氏によりママコナ属の新種エゾママコナとして発表されたのである。本種は、足寄町・紋別市・当麻町など、北海道中央高地を取り巻く形でその山麓に分布し、岩場に生育しているという。種小名は「yezoense」とされた。

その後何度か足を運ぶうちに、エゾママコナは近くに数箇所自生していることが分かり、ヒロハハナヤスリも展望台の沢地等で確認している。

探しに探して=オニク=

葉は鱗状で花は唇形、葉緑素をもたない1年生の寄生植物。図で見る、ずんぐりした姿が興味をそそる。名前だって面白い。高山植物に手を染め

始めた頃、こんな奇妙な植物が大雪山にあるのか、あることになっているからあるのだ。何とか会いたいと、その気持ちは募るばかりであった。

旭川営林局のT氏や富良野岳の監視人W氏は、富良野岳の頂上近くでよく見ると言う。だから頂上付近に的を絞り込んで、オニク探しの登山が続いた。しかし、そう易々と姿を現してくれなかった。

それから4年目、今年も空振りで終わりかと、半ばあきらめて登山道に腰を下ろした。そのミヤマハンノキの枝陰に、ポコッと茶色の円筒が覗くではないか。「ヤッター!」。ここなどは幾度となく探し歩いた所なのに、何とあっけない幕切れであったことか。

追記

頂上まであと一息という所に、登山道が少し広くて休憩に好都合な赤茶色の砂礫を敷き詰めた場所があります。そこが初見の地です。ご存じの方も多いたと思いますが、辺りにはミヤマオダマキ、ミヤマアズマギク、エゾルリソウ、フタマタタンポポなどもふんだんに出てくる、たいそう贅沢な観察場所です。

山と花が大好きな御婦人が、どうしてもオニクを見たいと言うのでこの場所を教えてあげました。でも、彼女は今もって会えていないそうです。何しろ1年草で神出鬼没ですから、残念ながら今後も遭遇の保証はありません。私自身その後の数年間でも、富良野岳では数えるほどしか目にしておりません。

大雪山では、固体数はそう多くはないのですが、結構広く分布しているようです。最近は高原温泉の沼巡りコースの入口によく出現するようになりました。



暑寒別岳とは、ソー・カン・ベツ（滝が上の方にある川）標高1,491M、頂上までの行程約9、5KMの死火山、周囲に群別岳、浜益岳、雄冬岳など1,000M以上の山々が連なっています。登山コースは、増毛町ルートのほかに雨竜沼からのコースもあり、多くの登山者に利用されています。今回は、暑寒コースの案内をしたいと思います。

市街地から山に向かって国道231号線を800Mほど行くと果樹園の入り口にリング形をした大きな案内板があります。そのまま暑寒別川に沿って車を走らせ二股を左に進み、まもなく暑寒山荘に到着します。増毛市街から13、5KMの距離になります。

山小屋周辺は、溪流の森として整備され、ポンショカンベツ川のせせらぎを聞きながら、野鳥の声を楽しむことができます。

トドマツが混じる林の中には、ツタウルシやエゾアジサイ、ギンリョウソウ、ウメガサソウ、コイチャクソウ、モミジカラマツ、クルマユリ等の珍しい植物が目につきます。

木道の脇には、各種のツツジ類やアジサイ等が植栽され森林浴を楽しむことができます。

登山道に沿ってゆるい傾斜をしばらく登りやがて階段状の急な登りが続き、1合目の分かれ道にでます。（下山の時に注意が必要です）つつじヶ丘、佐上台へとだらだらの浅い坂が続きます。

5合目には、小広場があり、テントを張るスペースもあります。以前は、湧き水があり、渴いた喉を癒してくれましたが今は涸れて利用できません。



ミヤマハンショウズル(キンボウゲ科)



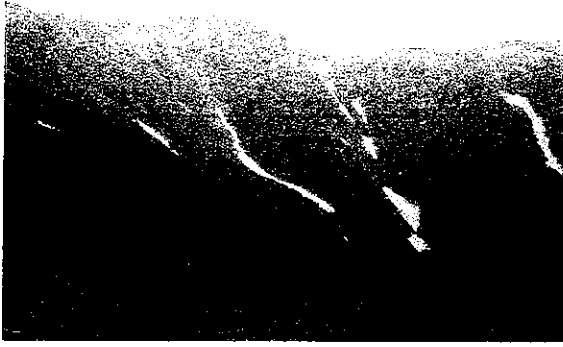
暑寒別岳登山入口

6合目の半ばには、急な登りがありロープを伝いながら登ります。

岩の窪地にリンネソウ等の高山植物が見られます。登り切るとハイマツ帯となり登山道の脇には、ミヤマハンショウズルの可憐な花が疲れを癒してくれます。

扇風岩からの眺めは、素晴らしく西暑寒岳の中腹から流れ落ちる滝やポンショカンベツ川の流域の様子が一望でき、谷からの涼風を類に受け一休みです。

1,225Mの馬の背を越えて、最後の登りが目の前に迫ってきます。疲れた体に鞭打つてもうひと踏ん張りです。



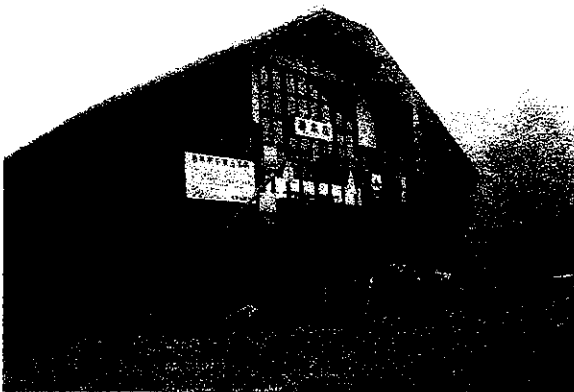
頂上台地から西暑寒岳を望む

ミヤマアズマギク、ミヤマリンドウ、アオノツガザクラ、ハクサンチドリ、コケモモ、エゾヒメクワガタ、ウメバチソウ、ハクサンボウフウ、シナノキンバイソウ等の植物が繁茂し、低い山にしては、高山植物の数も豊富で貴重な存在です。

花の時期は、どちらのコースも6月下旬から7月下旬あたりが見ごろです。

この頃は、竹の子採りの時期と重なり、脇道に深く入り込まないように注意が必要です。ちょっと脇道にそれるだけで道を踏み外し、危険です。

山小屋の周辺は、よく整備され、冷たい沢水が疲れた体を癒してくれます。



暑寒山荘(収容人員60人・無料・寝具なし)

根曲がり竹の根元には、サンカヨウやシラネアオイ、ツバメオモト、ゴゼンタチバナ、チシマンニンジン等の山草が目をはくようになります。

まもなく、頂上台地に到着です。

ハイマツの緑とそこに広がる高山植物の素晴らしさに疲れもいっぺんに吹き飛んでしまいます。

箸別コースの合流点から1本道を真っ直ぐに行けば1,491Mの頂上に到着です。

頂上付近には、エゾヤマゼンコ、タカネトウウチソウ、ハクサンイチゲ、チングルマ



9合目付近のお花畑(ハクサンイチゲ・シナノキンバイソウ)

野営場には、テントを張るスペースもあり、夏休みなど家族連れでキャンプを楽しむ人たちが賑わいます。

今年は、増毛山岳会創立50周年記念登山と開山式が6月16~17日、暑寒の高山植物を観る会が7月16日に予定され多くの登山愛好者が集うのではないかと思います。

木々の芽も日毎に膨らみ、まもなく待望の春を迎えます。自然の恵みに感謝しながら今年は、どんな出会いが待っているか楽しみにしているところです。

登山計画届

平成 年 月 日届

提出者郵便番号

提出者住所

提出者氏名

提出者Tel&Fax

登山計画届

- ① 目的山名山域 _____
- ② 山行種別 1会山行 2個人山行 その他「 _____ 」
- ③ 登山方法 1往復 2縦走 3その他「 _____ 」
- ④ 入山日時 平成 年 月 日 AM,PM 時 分
- ⑤ 下山予定 平成 年 月 日 AM,PM 時 分頃
- ⑥ 予備日 1なし 2あり「 _____ 月 _____ 日～ _____ 月 _____ 日」
- ⑦ 緊急連絡先 ○

住所 _____

Tel&Fax _____

○ 氏名 _____

住所 _____

Tel&Fax _____

⑧ メンバー

担当	氏名	住所	Tel&Fax
----	----	----	---------

CL	_____	_____	_____
	_____	_____	_____
	_____	_____	_____
	_____	_____	_____

⑨ 救援態勢 あり「⑦へ連絡下さい」

⑨ 山岳保険 「日山協一般共済 B タイプ加入済」

⑩ アマチュア無線～無線コール

⑪ 装備

○ 共同装備 _____

○ 個人装備 2万5千分の1地図、GPS、コンパス、雨具、傘、
ストック、軽アイゼン、ラジオ、無線機、携帯トイレ、
ツェルト、下着「一交代」、フリース、ナイフ、
救急救命品一式、カメラ、食料____食、非常食、シェラフ
ヘッドライト、コッヘル、カートリッジコンロ、高度計、
シェラフカバー、ザイル、カラビナ、エイト管、携帯電話

⑫ 登山予定コース

誰も教えてくれない山歩きするに当っての知識

登山届について 良く登山や山菜取りで遭難騒動や事故
があった際登山届が提出されているとか、されてないとか
言われますが一体何処に提出するのが良いのでしょうか？

また、山によっては登山口に入山記入簿が用意されている
こともあるし、記入簿がないところもありますがそうした
場合どのように対処対応すれば良いのでしょうか？

また山菜取や観察会、散策等の場合はどうすれば良いので
しょうか？

この届が提出されていないとアウトドア関連の保険に加入していても搜索費用や事故、障害等際保険の支払い対象にならないことがあるので注意が必要です。是非加入している場合約款を確かめ下さい。特に山岳関係の保険の場合「登山届」提出が保険加入者に義務付けられています。

それでは何処にどのように提出すれば良いのでしょうか？警察に提出するのです。何処の警察署でも交番でも派出所でも良いのです。何も登る山の最寄の警察でなくても良いのです。自分の場合は目的地に行く途中にある交番に提出してます。すると受け付けた警察の方で目的の山のある警察へ連絡してくれるのです。また最新の道路、登山情報も聞くと教えてくれます。そして下山したらこれも何処でも連絡の付く警察へ直接寄っても良いし、電話でも良いから無事下山した旨連絡すれば良いのです。これも何処の警察署でも何処から入山した者ですが今何処に下山しましたと言うことで良いのです。この下山連絡を忘れると大騒ぎになるのでご注意下さい。自分は本州の山へ行く時でも地元富良野署へまとめて登山届を提出し下山する度に下山地の警察署に下山連絡してます。その場合富良野から目的地の警察へは連絡されています。慣れるとこれほど便利なことはありません。

次に登山口にある記入簿ですが、これについては注意が必要です。記入するほうが良いのは勿論ですが山によっては毎日記入簿の確認がされているかどうか不明なのです。教

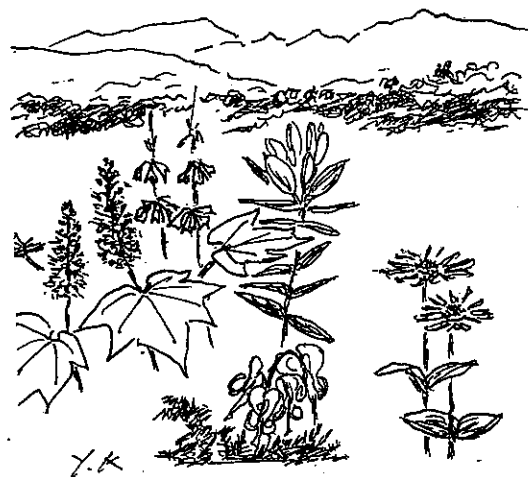


えてはくれないのですが余程人気の山でない限り毎日記入簿の確認はされてない様です。1週間、10日単位で見回り確認のところが多いようです。また記入簿には個人情報の観点からも氏名、住所、車のナンバー、連絡先等を記入しますが不特定の人に見られるということで問題も感じています。その点警察への「登山届」については心配ないと思います。この「届」についてはかなりベテランの登山をする人や山菜取の人でも知らない人が多いようです。今後は是非活用下さればと思います。そして安心安全なアウトドア、登山、観察会、山菜取り活動を期待しています。参考までに自分の「登山届」のモデルを添付します。

3月8日

富良野市

南部 栄一記



06年度小樽支部予定について

観察会参加者の意向は、大雑把にみて、山歩き組と、植物観察組の二つに大別されるように思う。始めから相分けするのも疑問があり、双方を満足するには山へ登りながら、花に親しめる、といった一般的なパターンに落ち着く。但し参加者それぞれに、体力、習力 に差があるので、最終選択は任せてもらうより外はない。多少の稜岩とハブニング、それに一種のサプライズが加わると、満足されるように思われるが、安全第一を考えるとそろもいかなくなる。そんな事を考えながら、今年の予定を別紙の通り作ってみました。予定表作りの骨組みは次の通りです。

前年の納会時（最終観察会）当日参加者から、来年行きたい山、或、本年印象に残った山等を聞き、又、日頃山歩きの折、どこぞの、いい山の話等を参考に於して予定を組み立てる、原則としてシーズン中は月/1回、年/2-3回は遠出（バス利用）を組み入れ、他は近郊の山（小樽、札幌、二セコ周辺）を念頭におく。5-6月の花見頃、10月の紅葉時は行きたい山が集中するので、盛夏、真冬月で調整する、従って、遠出の山はいさ知らず、近郊の山は、毎年同じ山が勢つがでてくる事になるが、同じ山でも時期が変わると、又新鮮な感じを受けるし、植物名等は冬の間に忘れてしまうものが多く、又行く度に新たに覚えてくるものが後を絶たず、近郊の小さい山にも、大いに出かけようと思っております。

時節柄、何かと御多用の事とは思いますが、予定表ご高覧いただき、又、ご都合付きましたら御出がけの上、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

06. 2. 17. 小樽支部、北原 武、



2006年小樽支部自然観察会予定表
 (北海道ボランティアレンジャー協議会・小樽支部)

No.	月/日(曜日)	行き先	見どころ	集合場所・時間
1	4/23(日)	オタモイ～赤岩山、	春植物	路線バス、オタモイ入り口下車、9時、
2	5/27(土)	春香山、	初夏の植物	桂岡浄水場先、銭函川沿駐車場、9時
3	6/22(木)	定山溪天狗岳	野草・野鳥	貸切バス小樽駅向い、第3ビル前バス停、7時
4	7/12(水)	富良野岳	高山植物、	貸切バス、小樽駅向い第三ビル前、バス停付近、4時、
5	7/22(土)	オコバチ山～穴滝	夏の樹林帯	自然の村前駐車場、9時、
6	9/16(土)	塩谷丸山～最上町	野草、キノコ	JR塩谷駅前駐車場 8時30分
7	10/20(金)	風不死山、	紅葉	貸切バス小樽駅向、第3ビル前バス停7時
8	11/11(土)	小樽市有林内	カラマツ黄葉	路線バス商大線終点 9時、
9	^{07年} 2/18(土)	天狗山東斜面	カンジキ歩き	天神浄水場前広場 9時、
10	^{07年} 3/25(土)	天狗山～オコバチ川、	カンジキ歩き	天狗山ゴンドラ乗り場9時30分、

参考

- ①約1週間前、道新小樽版、読売金曜夕刊等に集合場所、時間等を再掲します
- ②天候外の都合で、日時等変更する事も有りますので事前に申し込み願います
- ③参加料は、1人300円、貸切バスは実費、当日受付で願います、
- ④自家用車の方はその旨連絡願います(駐車場の状況、乗り合わせの可否等)
- ⑤申し込み、問い合わせ等は、0134-27-1701、北原迄、

広葉樹見分け 足跡発見

赤岩で雪の森林歩き観察



小樽支部の観察会

…道新に大きく報道

3月26日、カンジキで「赤岩山」を歩く観察会が行われ、その様子が「道新」に大きく報道された。小樽支部のみさんの地道な活動が大きく評価されうれしく思う。

自然解説員の説明を受けながら、赤岩山周辺の樹木を観察する参加者

小樽市の赤岩山周辺をかんじきやスノーシューで巡る自然観察会が二十六日、開かれた。参加者はまことに深い森林の中で、広葉樹の形や幹を眺めたり、小動物の足跡などを発見していた。

(森畑 電二)

北海道ホライズン・シヤトル協議会小樽支部(北原武代表)の主催。市内や札幌から十七人が参加した。

赤岩峰、赤岩山を縫うオタモイ溝までの行程を歩きながら、同支部の自然解説員がミズナラやシナなどの樹木の見分け方や特徴を説明。雪原にあるエゾリスやキタキツネの足跡も見つけ、参加者はじっくりと観察していた。

この日朝は雨が降っていたが、午後にはけりて天候は回復。青空の下、小樽ロッキークロスと呼ばれる赤岩、オタモイ海岸線の雄大な眺望にも、参加者は目を見張っていた。

月	観察会・研修会	実施日時	下見	集合場所	備考
4	「春の花を見つけよう」観察会	18.4.27(木)10:00~12:30	4.20 10:00	交流館(大沢口)	協力
5	春のありがとう観察会	18.5.14(日)10:00~14:30	5.13 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	恵庭公園観察会	18.5.21(日)10:00~12:00	5.20 10:00	恵庭公園駐車場	主催
	三角山登山観察会	18.5.28(日)10:00~14:00	随時	緑花会前登山口	主催
6	森の新緑観察会	18.6.11(日)10:00~13:00	6.10 10:00	交流館(大沢口)	協力・交流会食事
	北広島レクの森観察会	18.6.18(日)10:00~12:00	6.17 10:00	レクの森入り口	サークル活動
	富良野東大演習林研修	18.6.30~7.1		富良野麓野	主催
7	初夏の森観察会	18.7.9(日)10:00~12:30	7.8 10:00	交流館(大沢口)	主催
	芸術の森周辺観察会	18.7.23(日)10:00~12:00	7.22 10:00	狩留所前	サークル活動
8	森の探検隊	18.8.3(木)10:15~12:30	7.27 10:00	開拓記念館	協力
	鶴川海浜植物観察会	18.8.26~27		鶴川四季の館	主催
9	秋の花でにぎわう森を歩こう オホーツク支部研修会 (20周年行事関係)	18.9.14(木)10:15~14:30	9.7 10:00	開拓記念館	協力・昼食持参 主催
10	森の匂いをかごう (20周年行事関係)	18.10.15(日)10:00~14:30	10.14 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
11	晩秋の森観察会 登満別コース	18.11.3(木)10:00~14:30	11.2 10:00	交流館(大沢口)	主催・昼食持参
	秋のありがとう観察会	18.11.12(日)10:00~12:30	11.11 10:00	交流館(大沢口)	協力・昼食持参
	西岡水源地自然観察会	18.11.23(木)10:00~12:30	11.22 10:00	管理事務所前	主催
12	冬の森の観察会	18.12.10(日)10:15~13:00	12.9 10:00	交流館(大沢口)	協力・交流会食事
1	円山登山観察会	19.1.15(日)10:00~12:30	1.14 10:00	円山登山口	主催
2	藻岩山登山観察会	19.2.25(日)10:00~14:30	2.24 10:00	藻岩山登山口	主催
3	野幌の春を探そう	19.3.25(日)10:00~13:00	3.24 10:00	交流館(大沢口)	協力・交流会食事

◆18年度 活動の重点目標

森の楽しさを体感できる観察会のありかたを考える。

- ・森の知識を伝える活動
- ・森から学ぶ活動
- ・森を介して人の輪を広げる活動

◆当会20周年の節目を意識し、めりはりのある観察会にしよう。

◆会員相互の研修会やサークル活動の活発化を図ろう。

生活に追われてご無沙汰しています。

実は日頃からできればよいなぁ…と、考えていることがあります。

野幌の植物目録は酪農大の村野教授がまとめられ、本になっています。聞くところによると過去に文献をまとめられたということです。現在の野幌の実態はどうなっているのでしょうか。帰化植物が増えていることは確実です。もう、いなくなっている種もあるとおもいます。

そこで、標本をつくり、調査してみるべきではないかと思ってきました。幸い人数も多いことですし、手分けしてやってみては？、野幌をよく知ることにもなりますし、勉強にもなります。只、標本1枚にも少なからぬ費用がかかります。厚紙代とポリ袋が。

4月からぼちぼち、お邪魔します。

平成18年 第21回定期総会

日時	平成18年4月22日(土)	13:00~17:00
場所	環境サポートセンター(北区北7条西5丁目 千代田ビル)	
日程	受付	13:00~
	研修会	13:30~14:50
	講師	豊澤 氏(当会員)
	演題	いろいろなキノコ
	総会	15:00~16:30
	《総会終了後》	
	懇親会	17:00~ 会費 3000円
	会場	北区北7条西1丁目 NSSビル地下1F「大地」
問合せ	事務局	011-791-0127田村
	総務部	011-772-0563三崎

編集後記

- 全道の会員のみなさんから、ある人は鳥の眼で、またある人は虫の眼で観察され優れた内容の原稿を送っていただき、広報部としてはとても喜んでいる。今後、ますます質量とも充実したものにしていきたい。
- 私たちの自然観察会は、自然に親しく接し、そこに学び感動しあう活動であるといえる。そうした運動を中心にしながらも、会員のみなさんは今回掲載した札幌の小林さんのような植樹を通して地球環境保全、先月号の千歳の竹腰さん、一昨年〈平山〉登山でたいへんお世話になった遠軽町白滝の小栗さんの有機・無農薬の農業などのような試みをされている人もいると思う。今日の病み続ける地球の状態を考えるととても重要なことである。そうした情報をも広く発信していきたい
- 次号の原稿は6月15（木）まで、広報部まで送ってください。
B5で1～2枚位で、多くても3枚。
- 今年は私たちの会の20周年であり、〈特集号〉をカラー写真などを入れた美しく豊登な内容の機関誌を作りたいと考えている。その編集内容な
んに関しては次号でお知らせしたい。

〈エゾマツ〉 76号 春季号

2006年4月6日

発行責任者 川端 功治

- ・この度の叙勲おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。
- 井内 亮司
- ・このたびは瑞宝小綬章、誠におめでとうございます。また、米寿のお祝い
を申し上げます。益々のご健勝をお祈りいたします。お祝いの会に参加でき
ず残念です。(九州旅行中) これからも、叱咤激励、ご指導のほどお願いい
いたします。
- 小淵 修子
- ・ボラレン発展に尽力有難うございます。今後も私達の運動にご支援をお願
いします。
- 佐藤 清一
- ・叙勲おめでとうございます。益々お元気で私達後輩のご指導をよろしくお
願いします。
- 門村 徳男
- ・この度の叙勲おめでとうございます。冬芽の凶鑑はまとまりのある配列と
要領を得た解説は冬のウオッチングに必携の書になりました。ありがとう
ございました。ご自愛ください。今後ともご指導ください
- 吉田 政徳
- ・この度は、叙勲おめでとうございます。遅くなりましたが、お祝い申し上
げます。今後のご健勝をお祈りします。
- 須賀 盛典
- ・おめでとうございます。これからもお元気で、ボラレンのためにも頑張っ
てください。
- 橋場 俊子
- ・長い間、ご指導有難うございました。更に叙勲おめでとうございます。こ
れからも健康に留意され、ご指導よろしくお願ひします。
- 南部 栄一
- ・叙勲の栄誉をお慶び申し上げます。益々お元気でご指導いただけますよう
願っています。
- 小林 文男
- ・これからもお元気で活躍を期待しております。
- 中林 光司
- ・このたびの叙勲まことにおめでとうございます。益々お元気で活躍され
ることをご祈念申し上げます
- 小栗 法昭
- ・数日前、テレビニュース、フイルムカメラ愛好会の中に川端先生のご尊顔
を拝見でき、昔のままのご様子に安心いたしました。使命を持たれる為の健
康をお祈りします。
- 香島 由美子

川端功治氏を囲む会



日 時 平成 18 年 6 月 24 日(土) 17:00~
会 場 札幌市中央区北 1 条西 6 丁目
味わい「つき灯り」(アーバンネット札幌ビル 1F)

次 第

- ・ 開 会
- ・ 発起人挨拶 成 田 伸一 様
- ・ 川端功治様 挨拶
- ・ 記念品贈呈 1) 鈿 鈿
- ・ 祝 杯 佐々木 幸夫 様
- ・ 懇 親
- ・ スピーチ
- ・ 乾 杯 今 村 ひろこ 様
- ・ 閉 会

ご挨拶

私達にとってかけがえの無い植物が2100年までに半分は消滅すると自然保護国際機構が予測公表しています。私達は自然観察を通じて自然保護運動を展開してまいりました。

それには、まことに遅々たるものを感じておりましたが、各レンジャーは各居住地の緑化運動、植樹、森林の手入れ、等により以上に参加することを意識してみてもどうか。

各位の豊富な経験と卓越した識見は、各種運動の企画や実行に多大な貢献を果たすものと信じております。このたび新鋭の田村氏を当会長に迎えた好機に、心機一転をこころみてはどうか。私は皆様方のご支援で、どうぞやら大過なく無事に任務を果たすことが出来た事を厚く御礼申し上げます。尚、後任の田村氏にも多大なるご支援の程をお願い申し上げます次第です。

略歴

大正7年3月31日	岩見沢市にて生まれる
昭和11年	庁立旭川中学校卒
昭和14年	北海道帝国大学農学部林学美科卒
昭和31~37年	八雲、東瀬棚、函館、営林署長
昭和37~47年	函館営林局職員、利用課長、事業部長
昭和47~58年	王子製紙、高谷木材勤務
平成12年	北海道ボランティア・レンジャー協議会会長
平成18年	同 顧問

お祝いの言葉

- ・叙勲、おめでとうございます。北海道ボランティア・レンジャー協議会運営につきましても一方ならぬご指導をくださり厚くお礼申し上げます。さらに益々のご健勝をお祈りいたします。
佐々木 幸夫
- ・叙勲おめでとうございます。長い間、会長としての役目有難うございます。今後ともご指導よろしくお願い致します。
伊藤 秀平
- ・川端治様は、体力、気力、知力、あらゆる面で私達にとって希望の星でありました。今後益々のご健勝を祈念します。これからも観察会にご参加ください。いい相談相手になってください。
春日 順雄
- ・おめでとうございます。健康第一で、今後とも活躍ください。
佐藤 健一
- ・川端会長の現地での動植物の説明の「すばらしさ」は一生忘れません。
小嶋 章夫
- ・おめでとうございます。写真撮りに行きたい。案内ありがとうございます。
田中 利男
- ・おめでとうございます。今後ともよろしくご指導お願い申し上げます。
藤内 道夫
- ・祝米寿、叙勲の荣誉、ボラレンの多大な功績に感謝申し上げます。更なるご健康を祈念します。
高松 文雄
- ・このたびは、叙勲大変おめでとうございます。野幌で、たくさんのこと教えていただきましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。
近久 喜枝
- ・おめでとうございます。これからの益々のご活躍をお祈りします。観察会で早くお会いしたいです。
青山 幸広
- ・北の大地に「今を最高に歩んでこられた証に」心からおめでとうを申し上げます。そして、全人的なレンジャーであった先輩と共にできたことに感謝申し上げます。
小泉 三雄
- ・瑞宝小綬章、誠におめでとうございます。
久志本 アイ
- ・川端さん、瑞宝小綬章おめでとうございます。旅行中のため、その席に出席出来ない事、残念に思っています。いつも元気いっぱい、ユーモアたっぷり、頭の中は知識でいっぱい。
これからは先もいまままでどうりの川端さんでいて下さい。私たちにすばらしいパワーを与えてください。
玉田 紀美子